

# はじめに

国立特殊教育総合研究所が平成14年に行った調査の結果によると、

盲・聾・養護学校の6割が教育活動のなかで  
動物との触れ合いを行っていることがわかりました。

また、4校に1校以上が  
大型動物である馬と触れ合う機会を設けていることがわかりました。

世界各地には、

障害のある子どもの教育や医療、スポーツ・レクリエーションに  
馬の特性を活かしている国々がたくさんあります。

しかし、今の日本の社会において、  
かつては身近にいた動物であった馬たちは、  
子ども達の多くにとって必ずしも日常的にふれあうことができる動物ではありません。

それだけに、盲・聾・養護学校の子どもたちにとって、

そして先生がたにとって、

馬とふれあう機会がより豊かなものになるために、

馬とはどのような動物なのか、

どのようにすれば豊かな触れ合いにしていけるのかを内容とした  
ガイドブックのようなものがあったら役立てていただけるのではないかと考えました。

それが、この本を創ることにした理由です。

この本は、

子ども達と馬との触れ合いをつなぐ先生たちにお読みいただきたいだけでなく、

子ども達にも見てもらえるようにページを工夫しました。

馬のいる場所には馬という動物との出会いだけでなく、

様々に豊かな環境があります。

そこでの体験が豊かな気づきや学習の機会になっていくことを心から願っています。

そして、その成果を是非私たちにお教えくださいますようお願い致します。

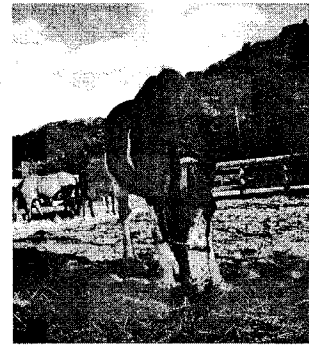
なお、このガイドブック作成にあたって多くの方々・機関から資料提供や取材協力をいただきました。

心から感謝申し上げます。

2005年3月

代表者 滝坂 信一

馬と  
馬会いに行こう  
馬と  
馬仲良くなろう



はじめに

<b>1</b>	馬のいる場所にてかけよう 馬のいる施設、設備 .....01 馬具、馬の手入れ道具、乗馬用品を紹介します .....03
<b>2</b>	馬という動物を知ろう 馬という動物 .....07 馬の健康と病気 .....11 *もっと知りたい人のために .....14
<b>3</b>	馬と仲良くなろう 馬とふれあうための知識：馬という動物の性格、馬の行動の見方、 接近の仕方など .....15 馬の世話：厩舎の掃除、給餌、手入れのしかた .....19
<b>4</b>	馬とふれあう、そして乗馬 乗馬がからだに及ぼす影響を活かす .....23 実施上の工夫や留意点 .....35 活動のプログラム：馬とふれあう、乗馬そして作業 .....37
<b>5</b>	教育活動としての馬の活用（事例） 教育課程に位置づけて行っている活動例 長野県木曾養護学校 .....41 福島県あぶくま養護学校 .....45 石川県錦城養護学校 .....47 地域活動としての活動例 福島県大笹生養護学校 .....57 長野県伊那養護学校 .....61 研究所で実施している活動例 .....65
<b>6</b>	馬を障害のある子どもたちの教育に活かす .....67 —「治療的乗馬」の世界—
	資料 .....71